

江北の四季

令和2年

8月2日

第18号



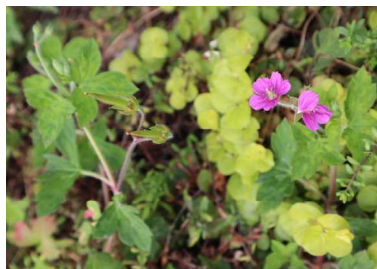
モミジアオイ(紅葉葵) 左も



モミジアオイはハイビスカスと同属で、草丈は1.5~2mくらいになり、15cm~20cmくらいの大きな花を毎年咲かせる宿根草です。葉は紅葉のような形で、花はアオイに似ているので付けられた名前です。別名は紅蜀葵(こうしよつき)。残念ながら水揚げはよくありません。

○大暑、第三十六候、末候、大雨時行(たいうときどきふる)。入道雲が湧き上がり、時に激しい雨や雷を伴う夕立が来ます。雨は乾いた大地を潤し、暑苦しい日々を涼風を運んでくれます。

長い梅雨が明け夏らしい日々となりました。コロナ禍のため例年の夏とは異なり、友人を誘ってビールを飲みにも行けず、子や孫にも会いづらく、寂しい夏になりそうです。でも、HP上での月次会での近江湖陽会会員の方々の作品が、一人ではないんだ、それぞれが頑張っているんだと、エールを送ってくれています。嬉しい取り組みです。



ゲンノショウコ(現之証拠)

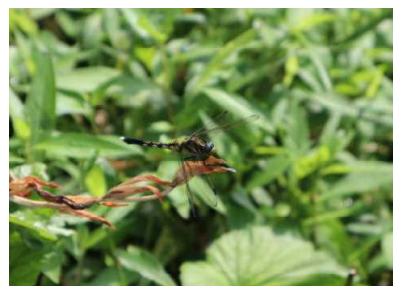


別名イシャゴロシ

ゲンノショウコの可憐な花が咲いています。古来より、下痢止めや胃腸病に効能がある薬草として有名で、名前も煎じて飲むとその効果がすぐ現れるところからきています。東日本では白花、西日本では紫紅花が多いらしいです。

○花火大会はなくなりましたが、自宅での家族花火くらいはしたいものです。浴衣を着る元気はありませんが、線香花火で夏の夜を堪能したいですね。

点火直後にパッと「牡丹」のような赤い玉がぶらさがり、パチパチと「松葉」のように火花が飛び散ります。しばらくすると「柳」のように小さな火が流れ落ち、小さな火花「散り菊」をみせてくれます。誰がこんな粋な表現をしてくれたのでしょうか。

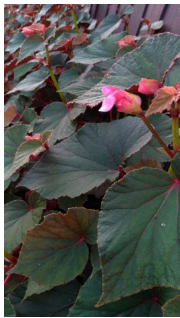


シオカラトンボ

庭でシオカラトンボをよく見かけるようになりました。くすんだ黄色のものはムギワラトンボとも呼びます。



なぜか、春に続いて紫木蓮が咲き出しました。えー？



シュウカイドウ
(秋海棠)

春に咲く海棠に似ているから。湿度のある半日陰に育ちます。

「蓼(たで)食う虫も好き好き」という言葉があります。この蓼は刺身のつまや鮎を食べる時の蓼酢を作るのに使われるヤナギタデだそうです。茎や葉に苦味があるとのこと。それを好んで食べる虫もいることから「人の好みはさまざまである」ことのたとえです。子供の頃、隣の子は女の子で、よくままごと遊びをしましたが、タデと言えば「アカマンマ」ですね。ままごと遊びの赤飯です。でもこの赤飯のアカマンマはイヌタデの方です。



オオケタデの花



オオケタデ(大毛蓼)

花は、米粒の半分ほどの大きさで、上から見ると赤く見え、下から見ると白く見えます。これがのし袋を飾る紅白の水引紐に似ているため水引草。オミナエシやタデと同様、小さな花が集まって花穂をつくっています。華やかさは今一ですが、どれも初秋を飾るにふさわしい花です。



水引草の花



ミズヒキ(水引草・斑入り)



シュウカイドウ
生花正風体

オオケタデ、セイバンモロコシ、キンミズヒキ、ケイトウ (ケイトウ以外は雑草ですね)

宗匠を真似て少ない花数で初秋の風情(ふせい)を出してみました。残念なのは、紅葉や秋海棠もですが、大毛蓼も水揚げが悪く、半日しかもちません。命短いのも風情の内と諦める他なし。



立華新風体

後の実には鍵形の棘があり、小動物などに付着して生息域を広げます。別名をヒツキグサ(引っつき草)といいます。



キンミズヒキ(金水引)

姿が、紅白の水引草に似ており、花が黄金色に見えるということで、金糸に見立てキンミズヒキ(金水引)と呼ばれますが、水引草とは異なる仲間です。花

○フィボナッチ数列と黄金比(おうごんひ)

偶然ですが、池坊の月刊誌『華道』八月号の「にっぽん花紀行」でヒマワリが特集されていて、フィボナッチ数列(1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, …)が出てきました。ヒマワリの花は小花の集まりですが、その小花が渦を巻くように並んでいて、外側から中心部に向かって、右回りの渦が34、左回りの渦が21あるという写真が掲載されていました。

フィボナッチ数列の隣同士の比をとると、1:1.6という黄金比が出てきます。名刺や縦長の本などの長方形の縦と横の辺の比はこの黄金比である5:8ですが、ヨーロッパでは古来より、この比はもっとも均整のとれた美しい長方形であるされています。美術の教科書にも出てきますが、有名なのはパルテノン神殿やミロのヴィーナスで、この神殿を正面から見ると、縦と横の比はほぼ黄金比となっています。またヴィーナスの頭のとっぺんからおへそまでの長さとおへそからつま先までの長さの比も黄金比になっています。ちなみにオーダーリー・ヘプバーンの顔の縦横比率も1:1.6だったそうです。

一方、教科書や多くの本は、A版(A3・A4)やB版(B4・B5)と呼ばれるもので、縦横の比は1:1.4の白銀比(はくぎんひ)となって

います。法隆寺金堂の一階と二階の軒の長さの比や、五重塔の一層と五層の軒の長さの比は白銀比だそうです。東京スカイツリーにも白銀比が使われており、第2展望台までの高さが48mで全高が634mですから、1:1.4となっていてます。大工さんの使うL字形の曲尺(かねじゃく)も裏目盛りが表目盛りの1:1.4倍となっていてます。

生け花でも、盛り花や生花の主な枝の長さの比をほぼ1:1.6にしますが、1:1.4は白銀比となり、5:3は黄金比となりますね。昔の人は偉いなあ。



アスパラガスの実



アスパラガスの花

畑には葉だけのものと花と実のついたもの3種が共存しています。



クレマチスの花のあと

花が終わった後の実は手毬のようなものをつくります。垣根で秋風に揺れる姿も一興です。自由花にしたいものです。



表面を磨き、えらと目玉をとり、干してからつけ込みます。

何とか塩きりフナを手に入れ、我が家恒例の鮎寿司漬けをしました。半年後の正月に桶から出るのが楽しみです。熱燗に合います。

